

v.Granz クラス Round4 決勝レース不成立の原因と対策について

2025 SUZUKA CHAMPION CUP RACE シリーズにご参加いただき、誠にありがとうございます。2025 年 10 月 4 日・5 日に開催されました 2025 SUZUKA CHAMPION CUP RACE Round4 v.Granz クラス決勝レースにおいてシグナル操作の誤りが発生しましたこと、またその後のレース運営に関して適切な判断ができず当該レースが不成立、Final Round での再レース実施となりましたこと、深くお詫び申し上げます。

この度発生いたしました事象につきまして原因と対策についてご報告させていただきます。

1. 決勝レーススタートに関する時系列

- 1) 全車両がグリッドに整列し、グリッド後方でグリーンフラッグが振動表示された直後、最後尾車両がエンジンストール。ドライバーがスタート審判員にアピールした。
- 2) スタート審判員は 4 台毎に 2 名体制で監視していたため、グリッド 9 列目 (No.17、No.18 グリッド) 横のスタート審判員がイエローフラッグを振動表示。(この時スタートシグナルは赤 3 灯目が点灯)
- 3) 直後、10 列目横のスタート審判員が連動してイエローフラッグを振動表示した。(この時スタートシグナルは赤 4 灯目点灯)
- 4) 複数のイエローフラッグ振動表示のままスタートシグナル 5 灯目が点灯。
- 5) シグナル 5 灯消灯と同時にグリーンシグナルが点灯。直後アボートライトが点滅した。

2. シグナル操作の誤りに関する原因

- 1) ストール車両発生に伴うイエローフラッグ表示に起因する誤認
最後尾車両のみがストールした場合は正規スタートを行っても問題はなかった。しかしながら最後尾車両のストールに対して複数のイエローフラッグが振動表示されたことにより、スターターが複数のストール車両が発生したと誤認し、正規スタートができないと判断してしまった。
- 2) スターターサポート体制の不足
スターターは 1 名でスタート台 (No.0.5 ポスト) からグリッド監視と、シグナル操作を同時に行う 1 人 2 役状態であり、シグナル操作の誤りを誘発しやすい体制であった。

3. レース管制の判断に関する原因

- 1) スターターおよびスタート審判員と競技長のコミュニケーション不足
スターターは、自身のスタートシグナル操作の誤りに動揺してしまい、管制室への報告ができていなかった。またスタート審判員は、一部の審判員は不適切なスタートシグナル運用を認識していたが、管制室を含む大部分のスタート審判員はスタートシグナル 5 灯消灯までのスタート違反検証作業を行っていたため管制室全体で事態の把握および共有、競技長への適切な報告がなされなかった。
競技長は走行車両に集中していたため、自身では異常スタートの発生を認識することはできず、また上記の状況からスタート審判員およびスターターを含むコースオフィシャルからも異常なスタートが発生したことが適切に報告されなかったため、競技長が事態を認識できていなかった。

- 2) 競技会審査委員会の提言に対する競技長、副競技長の認識違い
競技会審査委員会は、審査委員会室に配置されている独立した検証システムを使用し、異常なスタートが発生したことを認識していた。そのため競技長および副競技長に対し“異常なスタートが発生していた”旨を共有。競技団に対し検証するように提言したが、競技長および副競技長は1)の状況から“スタートにおいて異常は発生していない”という思い込みがあったこと、且つ既にレースが一定程度進行していることからそのままレースを継続した。

4. 再発防止策

- 1) スタート審判員体制の強化およびイエローフラッグ運用の改定
スタート審判員を増員し、2 台毎に監視する体制強化を行う。また最後尾車両がストールした際はレーススタート（赤シグナル5 灯消灯）するまでイエローフラッグ振動表示は行わず、レーススタート直後に追尾車両へのインフォメーションとしてイエローフラッグ振動表示する。
- 2) スターター体制の強化
スターターを補佐するオフィシャルを配置する。2 名が連携してグリッド監視とシグナル操作を行い、スターターがシグナル操作に集中できる体制を整える。
- 3) スターター、スタート審判員、競技長の情報伝達ツールの強化
スターター、スタート審判員、競技長を繋ぐ、専用の音声回線を追加設定するとともに、スタート審判員用の無線機をスターターに追加配備する。スターター、スタート審判員、競技長間のコミュニケーションを円滑にするとともに、スタート審判員が把握した情報がスターターに即時共有される仕組みを作る。

以上